

ひとりで衣服の着脱ができる子

八 木 恵美子

1. 対象児のプロフィール

生徒名 S・Y (女) 昭和48年10月17日生 (中学部2年)

(1) 生育歴の概要

出生時の体重は、3450g。生まれてすぐは泣かなかった。生後2週間くらいまで大きな声で泣いたり、手足を動かしたりすることなく、眠ってばかりいた。2歳の時、国立米子医大にて精神運動機能発達遅延と診断される。その後、神戸子供病院、国立神戸医大で筋力検査、脳波検査を受けたが、いずれも特に異常を認められず、4歳半より、ハリ治療及び漢方薬治療を受け、6歳で本校小学部に入学し現在に至る。

(2) 遠城寺式発達検査の実態 (S. 60, 4)

	移動	手の運動	基本的習慣	対人関係	発語	言語・理解
発達年齢	2:9	2:0	3:0	2:3	2:6	2:0

(3) 家庭環境

- ① 母、祖父、祖母、兄(高校2年)、本人の5人家族。みんなに可愛がられ、甘えている。本児は、特に兄が大好きで、部活で帰りが遅かったり、外泊したりすると、「お兄ちゃんおそいなあ、帰ってこなあ。」と言って、いつまでも寝ないで待っているという。
- ② 登校は、母親の車で青谷駅まで送ってもらい、バスに乗せてもらう。下校は、青谷駅バス停まで祖母が迎えに出て、一緒に徒歩で帰る。
- ③ 下校後は、外に遊びに出るわけでもなく、家でテレビを見たり、ひとり遊びをしている。日曜日は、母親が車で買い物や、催し物や、親類などに連れて行ったり、なるべく外へ連れ出してやろうとしている。
- ④ 服の着替えは、朝は母親で、下校後は祖母がさせている。自分だけではできない。
- ⑤ 母親が生活ノートに、毎日必ずS子の行動、ことば、会話などを書き、自分の気持ちも書き加えてある。

(4) 性格行動上の特徴

- ① 指示がわかり、ある程度指示に従って行動できる。
- ② 人なつっこく、だれにでも「だれだあ。」「おばあさんは。」などと話しかける。
- ③ 「勉強しよう。」と言って、紙に点や線を手の動くままに書く。
- ④ わずかの間しか席についていることができず友だちにちょっかいをだしに行くことが多い。

⑤ 極度の肥満のため（身長157.4cm、体重76.4kg）、動作は緩慢であるが、リズムを好み、曲に合わせて体をゆすって踊る。

2. 個人目標の設定

発達検査による本児の発達能力は、2～3歳程度である。身辺処理が自分一人で行うことは少なく、大なり小なり援助が必要である。「歯みがきに行きます。」と言って行くが、ついていて指示したり、援助したりしないと、一人ではできず、歯みがき粉や洗面器で水遊びをしている。排泄は、「おしっこ」と言ったり、前をおさえて知らせる。小便の方は、指示をすると、ペーパーを取り拭くことができるが、大便の方は、太っていておしりに手が届かず、拭くことができないので援助が必要である。学校に来たら服を着替えなくてはならないということは分かっており、自分で着替えようとするが、援助が必要である。

そこで、母親と話し合い、基本的な生活習慣の確立を目ざして、まず、衣服の着脱の自立と取り組むことにした。

3. 指導の重点と手だて

本児の着脱衣については、学校に着くとすぐ「着替える。」と言って、更衣室に行き、脱いだり着たりは一応できるが、ただやっているだけで衣服の裏表も、前後も分っていないので、逆に着いたり、裏返しのまま、着たりはいたりすることが多かった。そこで、ただ、教師や家の人が、前を持って与えて着せるのではなく、よく見させるようにしようと考えた。と言っても、ただ、「こっちが前ですよ。」「名前の書いてある方が前ですよ。」などと言っても本児には、分からない。そこで、スカート、体操シャツ、ズボン、くつ下の前にボタンやテープをつけて目印にし、見る位置、持つ位置をはっきりさせることにした。この印をまず、指さして、「ここが前ですよ。」と言い、その印を見ながらかぶったり、はいたりさせるようにしていった。また、パターン化してやるのが、本児には分かりやすく、動作を早くすることにつながっていくと考え、一連の動きをパターン化し反復練習させた。



4. 指導の実際

家庭では、朝、制服に着替える時も、下校後、普段着に着替える時も、ほとんど母親と祖母に手伝ってもらっていた。学校でも、友達と一緒に着替える

と、友達がすぐに着せてしまったり、後始末もしてやったりするので、時間をずらして、ゆっくり待って自分でさせるようにした。家庭へも連絡して、時間がかかってもなるべく自分でさせるようにしてもらった。自分でやろうとしたり、よくできた時には誉めて、意欲を持たせるようにした。

最初の頃は、本児の好きなように脱がせていたので、シャツもズボンもくつ下も、ほとんど裏返しであった。裏返しになったものを教師が示してやり、「ギュッとしんさい。」と言って、片手をつ

っこませて、シャツの袖口やズボンのすそ口を持たせてひっくり返させ、ハンガーにかけロッカーに入れさせていたが、時間も手間もかかるし、前後、裏表の混乱を招きやすいことに途中で気づき、「裏返しにならない脱ぎ方」を指導していくことにした。

S子の着替えにおける変化は、次の通りである。

		4 月	手 だ て	12 月
上着・ カッター シャツ	脱ぐ	<ul style="list-style-type: none"> 右手でひっぱるようにしてボタン、スナップをはずし、身ごろを両手で持って後ろへひっぱり、そのまま脱いで両袖がいつも裏返しであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ボタンを見て、両手ではずすように声かけをした。 身ごろを両手で持って肩を抜き、袖口を持って片方ずつ腕を抜かせるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> スナップは、両手ではずすが、ボタンは、やはり片手でしてしまう。 両袖を抜く時、そのままひっぱろうとするので、はじめに抜く方の袖口をひっぱってやると、自分で脱げだした。
	ハンガー にかける	<ul style="list-style-type: none"> 袖が裏返しになったまま、めちゃくちゃにハンガーにかけようとして、よく落ちていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 前開きを手前にし、肩の近い衿の所を持たせ、片方ずつ持ちかえてハンガーにきちんとかけさせるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 両方の肩の部分がうまくはまらず、片方にかたむくこともあるが、落ちないようにかけることができた。
	着る	<ul style="list-style-type: none"> 前後、裏表がわからないため、なかなか着られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 前身ごろを前の方に向けて、肩に近い衿のところを両手に持たせた。片方ずつ手を通すのは、本児にはむずかしいので今までのように両手一緒に通させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 肩に近い衿の所を自分で持って、「ボーイ」と言って、いきおいよくふり上げ、背中へまわし、両手一緒に手を通し、一人でボタンをすることができた。
ス カ ー ト	脱ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ウエストをゴムにしているため、両手で持って脱ぐことができたが、タスキのスナップもみんなはずして、踏んづけることが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> なるべく、タスキのスナップを両方はずさないようにさせた。そして、両手をはなしてしまわないように、持ったままで足を抜くようにさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月より、とても早く脱ぎ、あまり踏まないようになったが、やはり太っているため、タスキのスナップを両方ともはずしてしまう。
	ハンガー にかける	<ul style="list-style-type: none"> タスキのところをかけないで、ズボンのように2つ折りにしようとして、いつも落ちてかけられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> タスキのスナップをきちんととめて、両手に一本ずつ持たせ、ハンガーの両側からかけさせた。(ハンガーの肩の所にくぼみのあるものを用意した。) 	<ul style="list-style-type: none"> 片手でおさえながら1本ずつかけれるようになった。
	はく	<ul style="list-style-type: none"> ウエストのゴムの所を持ってはくが、前後、左右おかまいなしに足を入れるので、タスキができにくかった。 	<ul style="list-style-type: none"> スカートの前のタスキをとめるスナップの上に白いボタンをつけ、「ここが前ですよ。」と言って、見せてから、そこを持ってはかせるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ボタンの所を両手で持って、はけるようになった。一人でも前を見てはけるようになったが、まだ、タスキは援助が必要である。

トレーニングズボン	脱ぐ	<ul style="list-style-type: none"> 一人で脱ぐことはできるが、手を使わないで、足で踏んで脱ぎ、けっしてしまったり、そのまま立っていたりすることが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ウエストの両脇の白い線を持ってひざまで下げ、すそを持って片足ずつ抜き裏返しにならないようにさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ついていて「片足ずつ」とか、「手でひっぱって」などと、声かけをすると、「ひっぱって」などと、繰り返しながら自分でするが見ていないと手を使わない。
	はく	<ul style="list-style-type: none"> 片方に両足を入れようとしたり、前後が反対になってしまったりしていた。そして、反対でも平気ではいていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ズボンの前のゴムの所に赤い2cmのテープをはり、目印にして「ここが前ですよ。」と言いながら白線の所を両手で持ってはかせるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 赤いテープを見ながら、両手で白線を持てはくので、だいぶ、前後をちがえずにはくようになった。
体操シャツ	脱ぐ	<ul style="list-style-type: none"> すその方から上げて、首をさきに抜き、そのまま両手を抜くのでいつも裏返しのままであった。 	<ul style="list-style-type: none"> 前首ぐりを持ってひき上げ、あごを入れるようにし、後ろ首ぐりを持って引っ張り、頭を抜く。袖口を持って腕を片方ずつ脱がせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 袖口を持つことによって、裏返しにならないようになってきたが、指示しないと、今まで通り、すその方からまくり上げる。
	着る	<ul style="list-style-type: none"> 前後を反対に着ることが多かった。首も両手も一緒に万才をしながらかけていた。 	<ul style="list-style-type: none"> シャツの前身頃の裏のすそに赤いテープをはり、「ここが前」と言いながら、両手をさきに通してから首を入れるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 赤い印を見ながら手を通すので、前後がわかりだした。印を見ない時は、「前は」と言うと、「ここだ」と指でおさえる。
くつ下	脱ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ゴムのところをひっぱって脱ぐので、いつも裏返しであった。 	<ul style="list-style-type: none"> つま先の方を持って抜くようにさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 足が大きくて、なかなか脱げず、あきらめて、ゴムの方からひっぱって脱ぐ時がある。
	はく	<ul style="list-style-type: none"> 上下がわからず、かかとの方が上になったり、途中までしか足が入ってなくても平気で歩いていた。 	<ul style="list-style-type: none"> くつ下の前のまん中に、赤いテープをつけ、「ここが前」と言いながら、両手で持てはかせるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 両手で持てはき、だいぶつまさきの方まで入りだしたが、足が大きくなかなかはけられない時がある。

5. 考察と反省

4月当初は、一人でさせると、前後、裏表おかまいなしで着たり、脱いだものは、裏返しのまま置いていたり、ハンガーにうまくかけられないので、ロッカーの中で無雑作に投げ込んだりしていた。

そこで、脱いだものは、表に返して、ハンガーにかけさせるようにしていたが、4の「指導の実際」にあげているように、途中で「裏返しにならない脱ぎ方」を指導した。裏返しにならない脱ぎ方をきちんと身につけておくことは、ハンガーにかける時も、次に着る時にも早く容易にできるからである。

ほとんど手伝ってもらわないと正しくできなかったS子の着替えも、パターン化し、目印をつけ

持つ場所を教え、反復練習をするようにし、自分一人でも何とか着脱ができるようになった。家庭とも連携を取り合い、なるべく一人でさせるように、また、目印を見させてからさせるようにしてもらった。母親の方から、「気がせけるけど、待ってやっています。」とか、「目印にリボンをつけてみたけど、気になってちぎって取ってしまったので、やはりテープがよかったですね。」という話もあったり、協力して取り組んで下さった。

本児のような子の衣服の着脱の自立には、一番簡単にでき、覚えやすい着脱衣の方法が最短距離になると思う。

まだ、着脱が確実にできるという段階ではないが、そばで見えていて、目印を意識させたり、声かけをしながら着替えさせると一応一人でできるようになった。けれども、シャツがズボンの上に出ていたり、衿が折れていたり、ボタンがはまっていないところがあっても平気であるので、1つでも気がついたら自分でできるようにさせたい。

いつでも、どこでも、先生や家の人に見てもらわなくても、一人できちんとできるようになることを願って、これからも指導していきたい。